

はるかな尾瀬

—目次—

- 02 特集 未来につなげたい
～尾瀬ボランティア20周年記念～
- 06 現地情報
 - ①原をわたる風だより
 - ②おこじょだより
- 08 尾瀬ボランティア情報
- 09 TOPICS
- 10 尾瀬保護財団からのお知らせ



2016.10 vol.31
(公財)尾瀬保護財団



▲「至仏山」1989年8月4日撮影（尾瀬保護専門委員 大森威宏）



▲「至仏山東面登山道」2002年9月26日撮影



▲「至仏山東面登山道」2016年9月10日撮影

特集 未来につなげたい 尾瀬ボランティア20周年記念

はじめに

尾瀬は、四季折々の美しい姿を私たちに見せてくれます。白く可憐なミズバシヨウや夏の湿原を彩るニッコウキスゲ、朝霧に浮かび上がる至仏山の山容…、その美しさと鼓動は、訪れる人に深い感動を与えてくれます。

しかし、自然とのふれあいを求めて年間数十万人の人々が尾瀬を訪れ、特に週末や花の季節などの時期に利用が集中するため、登山道や湿原の荒廃、マイカー利用による混雑など様々な問題が生じており、尾瀬にふさわしい利用のあり方が求められています。

尾瀬保護財団は尾瀬の貴重な自然を保護し、将来へと引き継いでいくために、財団の活動趣旨に賛同する人を「尾瀬ボランティア」として、平成8年2月から募集を開始しました。全国各地から予想を大きく上回る応募があり、嬉しい悲鳴がありがりました。その後、研修を経て、531名の第1期生が誕生し、平成8年6月より活動を開始しました。尾瀬保護財団の設立は平成7年であるため、設立当初から共に歩んできた存在です。今年度で活動20周年を迎えたことを記念し、今号では「尾瀬ボランティア」をご紹介します。



▲ 鳩待峠と大清水の入山口に掲示している横断幕

尾瀬ボランティアとは？

尾瀬ボランティアは、尾瀬保護財団が支援するボランティア団体で、主な活動は入山口啓発活動や清掃活動、荒廃湿地の植生復元活動などの自然保護的活動のほかに、尾瀬の自然に対する理解を深めるための自然解説活動や環境教育など、さまざまな活動に取り組んでいます。

尾瀬ボランティアそれぞれの経験や得意分野を活かしながら、尾瀬に対してできることを積極的に行っています。20年間、活動が継続されてきたのは、同じ志を持つ仲間と出会い、多様な活動を通じて互いに学び・楽しみ・助け合ってきたこと、そして何より尾瀬を愛する気持ちが強いからです。

目印はボランティア証と火ばさみ

尾瀬ボランティアは、活動の際に「ボランティア証」を着用することになっています。多くの方が胸元やリュックにつけています。尾瀬では、ツキノワグマやオコジョ、ヤマネよりも、尾瀬ボランティアに出会う確率のほうが高いでしょう。

美しい尾瀬を保つため、尾瀬の各所を回り、清掃活動を行う尾瀬ボランティアの手には「火ばさみ」が握られています。この「火ばさみ」は尾瀬ボランティアに登録する際に配付されるもので、平成9年から続いています。ガイドの帰りにも、木道脇に目を配り、さっとゴミを拾います。



▲ 火ばさみとゴミ袋



▲ ボランティア証

○登録者数：323名
(平成28年10月1日現在)

【内 訳】

男性256名、女性67名、
21都道府県(群馬県106名、
東京都49名、埼玉県43名、
神奈川・千葉県29名ほか。
最北は北海道、最南は大分県)

〈尾瀬ボランティアの活動の紹介〉

入山口啓発活動

尾瀬ボランティアの代名詞とも言える活動。尾瀬の各入山口で、登山者に対して、尾瀬のルールやマナーの協力を呼びかけたり、花をはじめとする自然情報を提供することで、安全に楽しく尾瀬を歩いていただくための活動です。



登山者へのルールやマナーの呼びかけ



尾瀬情報の提供や登山者からの相談にのる

自然環境保全活動

至仏山東面登山道の踏み込み防止用の柵立て、ロープ張り作業などの登山道整備や荒廃した登山道の植生復元作業などを行っています。



踏み込み防止柵の設置



植生復元作業

環境美化活動

尾瀬は「ごみ持ち帰り運動」発祥の地であることから、登山道や休憩場所などを定期的に巡回して、ごみ拾いなどの清掃活動を行っています。



施設維持管理活動

ビジターセンターの窓口対応や館内展示の案内、館内や公衆トイレの清掃、自然観察会やスライドショーの補助など多岐にわたります。



ビジターセンターの窓口対応

自然解説活動

休憩場所などで尾瀬の自然や歴史などを解説するお話ボランティアや、尾瀬の環境を守る大変さや尾瀬の自然の貴重さ、すばらしさを理解してもらうために環境学習ミニガイドツアーを実施しています。



山ノ鼻地区の環境学習ミニガイドツアー



尾瀬沼地区のお話ボランティア

地域活動

各尾瀬ボランティアがそれぞれの地域で、尾瀬の魅力や自然環境の保護についての啓発活動などを行っています。

入山口啓発活動に参加して

6月10日（金）朝4時30分に起床する。今朝の尾瀬山ノ鼻の最低気温は10.2度。尾瀬はまだまだ寒い。普段前橋に勤務している私にとって新鮮な朝である。眠い目を擦りながら、せつせと支度を整え、山の鼻ビジターセンターから鳩待峠へ向かう。

6時少し前、無事に鳩待峠に到着するとすでに入山口には人が立っている。尾瀬ボランティアの小野悠さんだ。今回、私は尾瀬ボランティア事務局担当として初めて入山口啓発活動を行うため、この活動に長年ご尽力されている小野さんに同行させていただいた。

入山口啓発活動で伝えるべき大切なこととして、①マットでの種子落とし、②木道は必ず右側一列で、③親子連れの方は子どもを先頭にしない、まずこの3つを覚えていただいた。伝えたいことはたくさんある。しかし、伝えられることには限りがあるのだと思い知った。6月上旬の鳩待峠はミズバショウをひと目見ようと多くの人でごった返す。今年は例年になく少雪と雪解けの早さによりミズバショウの開花が早く、すでに見頃を過ぎていく。この時期にしては落ち着いている。それでもひっきりなしに来る方々に対して、一人だけでは到底伝えきれない。一番多く目についたのが、種子落としマットに気がつかずに通り過ぎる方。なかにはアイスを食べながらや、両手が荷物で塞がっている方もいた。尾瀬の木道は普通の登山道より歩きやすいため、油断しやすい。雨に濡れた木道はこんなにも滑りやすいのかと、私は身をもって知るようになった。

今年、鳩待峠から山ノ鼻の間でツキノワグマの目撃情報が多く寄せられた。偶発的な事故を防止するため、われわれ人間が注意しなければならぬ。看板やホームページによる注意喚起を行うが、何より人が立つことが一番の啓発になる。入山口啓発活動によりクマの情報を初めて知ったという方も少なくないのではないだろうか。

小野さんはユーモアを交えながら声をかける。すると自然と笑みがこぼれる。「前にもここでお会いしました」とよく話しかけられるのだという。人と人とのふれあいと、親切にさせていただいたことは忘れることがないのだと、あらためて感じた。

（尾瀬ボランティア事務局担当



▲ 入山者に声をかける小野悠さん

尾瀬保護財団企画課 佐藤)

尾瀬保護財団設立20周年記念特別表彰



▲ 尾瀬ボランティア代表として大澤正明理事長から感謝状を受け取る小野悠さん



平成27年12月19日（土）に開催された「尾瀬保護財団設立20周年記念シンポジウム（日本消防会館ニッショールホール・東京都港区）」の特別表彰において、尾瀬ボランティアの長年の功績に対して感謝状が贈られました。

植生復元のあゆみ「至仏山」

表紙の2枚の写真は平成14年9月（左下）と平成28年9月（右下）に至仏山で撮影したものです。至仏山は、植生の学術的価値の高さから尾瀬の自然を特徴づける自然環境の一つであり、高山植物の宝庫としても知られ多くの登山者が訪れます。しかし、登山道周辺では植生荒廃や裸地化が進行し、極めて深刻な問題となっていました。

こうした中で、特に裸地化が進んだ場所に対しては、平成元年から8年間にわたり東面登山道の閉鎖と登山道再整備が実施されるとともに、植生回復を中心とする保全対策が進められてきました。

尾瀬ボランティアは発足当初から至仏山の植生復元と保護に携わってきました。現在では、植生回復は徐々に進んでおり、今後は復元から維持管理・モニタリングへ重点が変わります。美しい尾瀬の自然を未来につなぐため、尾瀬ボランティアの活動はこれからも続きます。

尾瀬好日

尾瀬ボランティア
狩野哲子 (No.378)

「回想」

♪夏がくれば思い出す はるかな尾瀬…♪のメロディ、決まった時期になると何処からともなく聞こえてくる。とり立てて大きな感慨もなく耳に触れていた。尾瀬たる姿を知らな過ぎた頃の事である。久しく前の事であるが、万人がそうであるように、将来について漠然と思い悩み、自身の努力ではどうする事も出来ない壁が立ちほだかり心が折れそうだった学生時代に、友に誘われ夜行で新宿を後にした。鎌田で乗り換え、戸倉からの歩きが始まった。清水から旧道を経て尾瀬沼へ辿ったのが初めての尾瀬であった。それは、随分と遠く嫌になる程の道のりであった。他に歩いていたら人の記憶はなく、暗くなりヘッドランプの灯りを頼りにやっとの思いで湖畔に着いた事を今でもはっきりと覚えている。翌朝、凜とした空気と朝靄の中の湖、果ての知れない木道、静けさの中の湿原…。感慨もなく、誘われるままに訪れた尾瀬から衝撃を受ける事となる。思い起こせばこの時が始まりであろう。それからというものは、時に移ろう尾瀬の姿を見ずにはいられなくなってしまっていた。ひとり静かに、ある日は友と、そして、当時所属していた山岳会の仲間と尾瀬ツアーなるものを企画し、一般公募を募り何度となくツアーバスを走らせた。自然の素晴らしさを分かち合ったものである。あれから時間が過ぎ仕事に翻弄されつつも時間を見つけては足を運び、自然からのエネルギーを私のものにしていった。



▲鳩侍峠で入山者に啓発する狩野さん (左)

平成7年、尾瀬保護財団の設立を新聞で知る。そして、ボランティアの公募に何の迷いもなく気持ちは向いて行った。紛れもなく、あの時の忘れもしない感動の尾瀬の姿をいつまでも…と思いつわっていきかけたからである。長い月日が座禅草の姿を消していき盗掘などの言葉も耳にした。まさしく、このままではどうなるのかと思いを巡らせていた頃である。ボランティア活動を始めてあれから20年の時を経て、数々の活動に携わる事が出来た。植生復元、移入植物除去、柵立て・はずし、至仏山巡回啓発、津奈木付近の交通整理のお手伝い、池塘の中の小銭すくいもあった。自然解説として入山口啓発活動、時が認定ガイドの必要性を唱えガイドの道も歩んでみた。あらゆる活動の一通りは試みた。とり分け活動当初の入山口

啓発などはボランティアの意識を高めた。多くの人が活動に心を寄せたものである。安全登山の手助けを担い、手分けして至仏山頂や巡回の中で啓発に勤しむ程であった。昨今、入山口啓発活動に陰りが見えている。私もその一人であるように、個々の都合は計り知れず、活動も個々の思いに委ねる所であるが、入山口で投げかける一言の重さは、安全で事故なく楽しんで頂くためや保護へのお願いなど、活動の原点と思えてならない。多くの仲間や財団に支えられ、教えられた20年。それぞれの思いで尾瀬があり、私には私の思いで尾瀬がある。今、初心に戻り この場所をいつまでも いつまでも…と、活動を通して秘かに願う私である。



▲尾瀬自然解説ガイドとしても活躍されている狩野さん

原をわたる風だより

山の鼻ビジターセンターより

今シーズンを振り返って

山の鼻ビジターセンターに勤務して

尾瀬に携わるようになり25年、山の鼻ビジターセンターに勤務して2年が過ぎようとしています。今年も尾瀬のシーズンはあつという間に過ぎてしまひそうです。

山の鼻ビジターセンターに勤務した事で、山小屋の方や尾瀬ボランティアの方々など、私が今まで関わってきた人たちとは違う立場の方々とは接する事がとても新鮮でした。

この自然の中で、自然が好きなのに困まれ楽しく仕事ができる事に感謝し、この尾瀬の素晴らしさをなるべく多くの方々に知っていただけたら、これからはがんばります。

(西澤 政春)

日々変わりゆく自然

山の鼻ビジターセンターに勤務することになり4年目になります。初めて尾瀬に来た時は、こんなに雪があるのかと圧倒されました。今年も入山の日からもうすでに雪は少なく、花たちは所々咲き始めていました。例年と比べると「え？もう咲いたの？」と思う花が多くあり、長く尾瀬に来られているお客様も驚いていました。来年はどんな驚きと発見があるか楽しみです。

(森山 暢希)

烏兔匆々

送る月日に看守無し、とはよく言われたもので、尾瀬のシーズンも5ヶ月を過ぎようとしています。

私自身、2年目というのは1年目よりも早く時間が過ぎるように感じ、去年と違う尾瀬の移り変わりと共に、時の流れの速さに驚くばかりです。しかし、元より人生には昨日と今日と明日しかなく、シーズンの残りも価値あるものにできるよう精進していきたいと思っています。

最後に、2年目も温かく迎えて下さった山小屋やボランティアの方など関係者各位に感謝申し上げます。結びとさせていただきます。ありがとうございます。

(菅原 興晴)

生きていくという実感

「山の中で、働いてみたい」そんな思いで尾瀬にやってきました。日に日に移ろいゆく季節、植物たちの成長、生き物たちの躍動。静かに、でもめまぐるしく変化する自然を感じながら日々を送ることは、自分自身の「私も生きています」という実感を繋がり



「至仏山にて」8月10日撮影

ました。人間も自然の一部だということ。そんな当たり前のことを改めて感じ、人間らしさを取り戻したような気がします。尾瀬で過ごした日々は、これから生きていくうえで大きな糧になるでしょう。この美しい尾瀬がいつ

までも続いていくことを願ってやみません。

(石塚 愛)

尾瀬一年目

尾瀬に来てあつという間に5ヶ月が経過しました。季節も春から夏を越え、もう秋へと変わってきています。

ここで生活して毎日のように尾瀬ヶ原を見ているのですが、尾瀬に飽きることなくあります。毎日、新たな発見があり、日々自然の美しさに感動しています。私はまだ尾瀬歴5ヶ月ですが、これから先もまだ歩いていない多くの場所を歩き、様々な尾瀬を見て、尾瀬についてよく知り、ビジターセンターに来て下さる皆様に尾瀬の素晴らしさを伝えていきたいと思っています。

(天平 卓)

久しぶりの尾瀬生活

ずっと憧れていた尾瀬で働き、仲間



「天空にのびる木道（アヤメ平）」6月10日撮影

達と一緒に寝食を共にする。3年前、この貴重な体験を味わった私は、この場所に戻ってきました。山の鼻ビジターセンターでの生活をきっかけに私の人生は山中心の生活となり、様々な山に登る中で「また戻りたい」と思ったからです。今年もこの素晴らしい場所で働き、3年前には見えなかったことが徐々に見えてくるようになってきました。湿原の状態や植物、動物たちの変化に驚きつつ、考えさせられることが多い今シーズンでした。

(萩原 舞)

今シーズンを振り返ってみて

瞬間に時が過ぎ、気づけば4年目の尾瀬での仕事が終わろうとしています。

今年もシーズン初めから、見た事のない現象の連続となりました。少なすぎる残雪やそれに伴うミスバシヨウの開花時期の変化、咲き急ぐ花たちなどこれまでのシーズンでは見ることができなかった現象を間近で見ることができました。改めて今まで過ごしたシーズンを通して、自然の不思議さ・大きさを実感しました。

(高堀 かな)



「春が待ちきれない！」5月14日撮影

おごじよだより

尾瀬沼ビジターセンターより

今シーズンを振り返って...

尾瀬に感謝

毎日、素晴らしい尾瀬の景色を眺めながら仕事をさせていただいておりますが、あつという間に10月、もうすぐ尾瀬のシーズンも終わりなのだと思うと寂しい気がします。

今年の尾瀬沼では、オコジョ、アナグマ、ノウサギ、テンなどの目撃情報が多かったように思います。動物を見つけたお客様は、窓口でその時の様子を嬉しそうに話してくれるので、動物たちは尾瀬の親善大使なのだと思います。豊かな自然が残っている証拠であり、この素晴らしい尾瀬で仕事ができることに感謝しています。

(阪路 善彦)

山の神様くオコジョく

あと1ヶ月で尾瀬のシーズンも終わりを迎えます。今シーズンを振り返った時に、たぶん一番嬉しかったことは、燧ヶ岳でオコジョに出会ったことだと思います。過去にも見たこと



「オコジョ」6月24日撮影

はありますが、今回は1回で6匹に出会うことができました。たぶんお母さんから独り立ちする前だったのだと思います。写真は、無我夢中で撮影した中の1枚です。毎年様々な発見や出会いがあることが尾瀬の魅力だと思います。そんな毎年毎年の変化・新たな出会いというものを大切にしていただければ幸いです。

(宇野 翔太郎)

来春を待ちわびて

尾瀬に来て早や4年経ち、あつという間にエゾリスの咲く秋を迎えてしまいました。

秋が訪れ冬の気配が近づくと、故郷同然に想っている尾瀬を離れる寂しさを感じます。今年度も尾瀬を訪れ、尾瀬沼ビジターセンターの勤務に携われることを本当に幸甚に思い、誇らしく思います。来年度は今年度よりも更に飛躍できるような努力し、少しでも尾瀬の自然保護に貢献してゆきたいと思っております。来年度もよろしくお願いたします。



「チングルマ」7月12日撮影

視野を広げて

今年で2年目となりました。今年が目新しいことはあまり無いだろうと思いましたが、意外にも新しい気付きがありました。去年は雪が多い年、今年が少ない年と言ったこともあって、

(川上 藍)

雪や雨、気温などの影響がとても顕著に表れているなあと感じました。同じ所に居ても、見方が変われば違うこと、気付かなければ同じこと。尾瀬で過ごせるのも残りわずかとなりましたが、自然のこことや、その他の小さな変化を見落とさないように、感覚を研ぎ澄ませながら過ごしていきたいと思えます。



「キノコの女王?」9月7日撮影

田代山の高層湿原

今シーズンも残すところあと1か月を切りました。昨年尾瀬に関わらせていただいておりますが巡回などを通して、その分だけ見る目も変わり興味を持つものも昨年とは違います。

(石塚 舞雲)



「田代山のコケ類」6月22日撮影

今シーズン一番印象に残っているのは田代山の高層湿原に魅せられた事です。多種多様なコケ類が色とりどりに湿原を覆っていて、とても見事に感じました。スライドショーでの湿原の成り立ちの説明により湿原の知識を持つことが

出来ましたが、そんな目で見てみると田代山湿原はとても印象的でした。

(穂坂 義人)

お客様の言葉

ビジターセンターで働いていると、お客様と接する機会が多くあります。初めて来る方もいれば、何度も訪れているリピーターの方も多くおられます。お花談義に盛り上がる女性たちや、キャンプ道具を背負いニコニコ顔で木道を歩くお父さん、クマの毛皮に驚く子供たち：たくさんのお客様が、それぞれに尾瀬の時間を楽しんでいるのを見ることが出来ます。お客様の言葉でいつも嬉しく思うのは、「本当に良いところですね」と言ってくれます。私自身も日々そう感じながら生活しています。素直な気持ちで「そうです」と言葉を返します。尾瀬に関する様々なことを、ご紹介できる立場にいられることに幸せを感じながら、残り少ない尾瀬の時間を楽しんでいただきたいと思います。

(江崎 花絵)

尾瀬での時間

5月に尾瀬に入ってからあつという間にシーズンの終わりが見える時期まで来ました。尾瀬のシーズン中、様々な方とお話が出来ました。「はじめての尾瀬です。」「40年前から尾瀬に通っています。」「それぞれの経験や感じているものを話していただき、色んな視点からの尾瀬を知ることが出来ました。多くの方のおかげで尾瀬に関して知識の乏しかった私も、今は微力ながら利用者の方のお役に立てることもあるようで嬉しく思います。残りの尾瀬の時間も皆さまと楽しく過ごしていきたいです。

(清水 千都)

尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは尾瀬ボランティアの活動の様子を紹介いたします。

●「尾瀬ボランティア講座」を実施しました

7月2日(土)～3日(日)に山ノ鼻地区において「尾瀬ボランティア講座」を実施し、13名の新人ボランティアが誕生しました。当講座は、新たに尾瀬ボランティアへ登録を希望する方の研修と先輩ボランティアとの交流を目的としたもので、山ノ鼻地区と尾瀬沼地区を隔年で実施しています。

まず初めにボランティア同士の自己紹介。これから共に活動する仲間と交流を深めました。続いて、尾瀬国立公園の保護のしくみ、尾瀬の保護の歴史、尾瀬の自然、尾瀬ボランティアに関する講義を行いました。すでに尾瀬に詳しい方が多く、とても心強く感じました。夜は山の鼻ビジターセンターで実施しているスライドショーの上映、その後ビジターセンター職員との交流会を行いました。



▲自己紹介の様子



▲環境省牧野自然保護官に国立公園についてご講義いただきました

自然解説)的活動」の大きく二つに分けられます。プロテクターの活動が中心となりますが、所定の研修を受講することでインタープリターの活動も実施することが出来ます。プロテクターの活動の経験を積むからこそ、心に響く解説ができるのです。続いて、鳩待峠までの美化清掃活動(ゴミ拾い)を実施。しかし、拾うゴミはあまりありませんでした。これも、普段から尾瀬ボランティアが啓発に努め、こまめに清掃活動をしている証拠です。研修の締め

2日目の最初は、ボランティア活動の一つでもある環境学習ミニガイドツアーを体験していただきました。尾瀬ボランティアの活動は「プロテクター(自然保護)的活動」と「インタープリター(自



▲入山口で熱心に話を聞く受講生の様子

くくりは、入山口啓発活動。尾瀬ボランティア活動の基本中の基本を、最後にしっかりと覚えていただきました。近年、入山口啓発活動の参加者が減っているなかで、今後多くの新人ボランティアに参加していただけることを祈っております。

最後に、今回は例年になく多くの先輩ボランティアの方々にご参加ご協力をいただきました。活動の楽しさや大変さ、何より先輩の経験や体験が一番心に響いたのではないのでしょうか。

●「ありがとう尾瀬清掃活動」を実施しました

尾瀬のすばらしい自然に感謝するとともに、来シーズンもきれいな尾瀬であるようにと、毎年シーズン終盤に「ありがとう尾瀬清掃活動」を実施しています。

9月3日(土)は一ノ瀬～尾瀬沼コースを財団職員のコーデイナーのもと、8名の参加で実施しました。天候に恵まれ、予定の9時より少し早く一ノ瀬を出発。目立ったゴミはありませんでしたが、菓子の小袋など、うっかり落としてしまいがちな細かいものが多く見受けられました。途中、小休憩を取りつつ、11時に尾瀬沼ビジターセンターに着。拾ったゴミの総量は450グラムでした。



▲晴天のなか、ゴミを拾う参加者たち

今年度は10月15日(土)に尾瀬ヶ原コースと尾瀬沿コース、10月23日(日)に尾瀬ヶ原コースの実施を予定しており、すべて終了すると今シーズンもいよいよ終盤です。来シーズンも綺麗になった尾瀬にぜひ遊びに来てください。



▲一ノ瀬～尾瀬沿コースで拾われたゴミ

トピックス TOPICS

○第4次尾瀬総合学術調査の実施

第4次尾瀬総合学術調査が、来年度より実施されることになりました。多くの研究者の参加を得て行

われる尾瀬での総合学術調査は、これまでに3回を数えています。1回目は昭和25年から行われ、地形の記載、生き物のリスト作成など、尾瀬の自然に関する基礎的な調査が行われました。それからほぼ20年おきに2回の総合調査が行われ、尾瀬ヶ原の成因に関する調査のほか、個別のテーマ研究が行われてきました。3回目の総合調査が行われてから約20年が経過し、新たな課題も生じていることから、尾瀬保護財団では昨年度から第4次尾瀬総合学術調査検討委員会を立ち上げ、調査の実施内容などについて検討してきました。

今回の第4次では、尾瀬への二ホンジカの進入や気候変動の影響が懸念される背景があり、研究者で組織する調査団の主宰により、65年前の1回目以来



▲学術調査検討委員会の様子

となる基礎的な調査が行われ、変化の把握、保全策の検討、継続的な比較調査体制の整備が行われる予定です。また、気候変動が尾瀬の生態系に与える影響を明らかにするための重点的な研究が行われます。

今回の学術調査の成果は、可能な限りインターネットなどを通じて一般に公開されるよう検討が進められており、ドローン撮影による3次元地形画像などを用いてビジュアルな情報閲覧が実現される予定です。

○尾瀬サミット2016の開催を中止しました

台風10号が関東や北日本に上陸するおそれがあり、参加予定の自治体や関係機関の危機管理体制の確保や参加者の安全を優先するため、平成28年8月30日(火)～31日(水)に予定していた尾瀬サミット2016の開催を中止しました。

会議では、二ホンジカによる被害対策、尾瀬ヶ原におけるツキノワグマ安全対策、外来植物対策、入山口の利用分散化、外国人入山者への対応、第4次尾瀬総合学術調査、尾瀬に関する情報の発信について報告や議論がされる予定でした。貴重な意見交換はできませんでしたが、関係者それぞれで尾瀬に関する施策を実施していくことになりはありませ

ん。

今回の開催地、新潟県魚沼市から尾瀬へは、途中で遊覧船に乗って行くのでちょっと珍しい山の旅が楽しめます。参加者に体験してもらえなかったのは残念でした。

次回は気持ちのよい天気で開催できるよう期待しています。

寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行ない、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。



◆個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。(財団への寄付を行った翌年1月1日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。)

福島県、群馬県にお住まいの寄付者：個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

◆また、尾瀬保護財団は「公益財団法人」に認定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りします。

◆企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度があります。詳細は財団事務局（群馬県庁15階・027-220-4431）にお問い合わせください。

■寄付につきましては、財団事務局にご来訪いただくか、財団にご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

特別協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略



2016年6月16日寄付

株式会社福島銀行 平成24年11月に発売された「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」の平成28年3月末現在残高の0.01%に相当する、1,048万円余のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 37,265,336円) また、昨年度に引き続き街頭募金活動を実施いただき、8万円余りをご寄付いただきました。(募金総額 239,986円)

寄付者からのメッセージ：福島銀行は、中期経営計画「ふくぎん本気(マジ)宣言」の基本方針の中で、社会貢献の取組強化を掲げております。「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」では、お預け入れ頂いた同預金の年度末残高の0.01%相当額を尾瀬保護財団へ寄付させて頂いており、趣旨にご賛同頂いた多数のお客様より永年ご支持を頂いております。かけがえのない尾瀬の自然を守るため、福島銀行はお客様と共に、これからも積極的に保護活動に取組んで参ります。

共和工業株式会社

代表取締役 松井恒雄

2016年4月7日寄付

共和工業株式会社 当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の保全に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で8回目となります。(通算寄付総額 1,400,000円)

寄付者からのメッセージ：共和は太陽光発電事業など自然保護を支援してまいります。

明日をもっとおいしく



2016年3月31日寄付

株式会社明治 (株明治様の群馬工場で使用される水の水源でもある、尾瀬の自然環境を後世まで守り、次代に繋げていくことで、社会そして子どもたちの未来に役立てていただきたいとの想いで、30万円のご寄付をいただきました。今回は3年にわたるご支援の3年目となります。(通算寄付総額 900,000円)

寄付者からのメッセージ：(株明治は、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。その一環として、尾瀬の貴重な自然環境が守られるための保全活動の一助になる事を期待し、寄付させていただきました。今回の寄付金が有効に活用され、尾瀬の美しい自然環境が未来へ引き継がれていく事を願い、支援を継続してまいります。

SAVE ON

2015年11月24日寄付

株式会社セーブオン 平成27年5月19日～6月30日および9月1日～13日の間、群馬、新潟、福島県内のセーブオン全店舗において、尾瀬環境保全募金を実施していただき、その募金額をご寄付いただきました。(通算寄付総額 6,751,550円)

寄付者からのメッセージ：(株セーブオンでは、「尾瀬国立公園」が位置する群馬県・新潟県・福島県の店頭にて募金を実施し、多くのお客様に寄付をお寄せいただきました。ご協力頂いたすべてのお客様に深く感謝いたします。今後も、尾瀬の貴重な自然環境を後世まで永く守り続けるための活動を応援してまいります。



2015年9月30日寄付

アサヒビール(株)群馬支社 これまで継続してご支援をいただいていた「うまい!を明日へ!」プロジェクトによるご寄付は平成26年度で終了となりましたが、今後も当財団への支援を続けていきたいというアサヒビール群馬支社様のご厚意により、平成27年度は100万円のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 28,957,751円)

寄付者からのメッセージ：アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や地域貢献を目標に掲げ、2009年春から、全国活動の一環として群馬県内での売上の一部を尾瀬保護財団様へ寄付させていただいてまいりました。今後は群馬支社独自の取り組みとしての寄付継続を含め、県民の皆様とともに環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役立ていただけたら幸いです。



水上高原ホテル200（水上高原リゾート株式会社） 水上より坤六峠を越えて尾瀬に入るツアーを同社が経営されているホテル（水上高原ホテル200）で実施されており、その収益の一部として30万円のご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で4回目となります。（通算寄付総額 1,140,000円）
寄付者からのメッセージ：環境保全と共に尾瀬の雄大な自然と楽しさ・魅力を伝えて参ります。

尾瀬紀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として総額 453 万円余りをご寄付いただきました。平成 19 年より今回が 10 回目のご寄付となります。（通算寄付総額 60,376,853 円）



第四証券株式会社 今年度は5万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 1,726,384円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



DIAMアセットマネジメント株式会社 今年度は226万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 30,188,427円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。



株式会社第四銀行 今年度は30万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 6,199,866円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



株式会社東邦銀行 今年度は74万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 10,551,422円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで永く守り続けることを目的として、当ファンドの販売・運用を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、広く尾瀬の自然を愛する皆様と共に力を尽くしていく所存であります。今後とも積極的にCSR（企業の社会的責任）を重視して取組んで参ります。



株式会社群馬銀行 今年度は116万円余りをご寄付いただきました。（財団設立当初からの寄付を含め、通算寄付総額 29,963,154円）
寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させていただきました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。

協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

株式会社ニチネン
2016年7月29日寄付

株式会社ニチネン様が片品村の尾瀬工場（平成19年4月に設立）で生産し、販売するミネラルウォーター「尾瀬の湧き水」の収益の一部を、尾瀬の自然環境保全のために役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成19年度から毎年ご寄付をいただき、今回で10回目となります。（通算寄付総額 1,000,000円）

株式会社読売旅行
2016年4月28日寄付

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、10万円のご寄付をいただきました。今回が3年わたるご支援の3年目となります。（通算寄付総額 300,000円）

株式会社フレッセイ
2016年4月28日寄付

フレッセイとキリンビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンビバレッジの対象商品の売り上げ1本につき0.5円（両社で0.25円ずつ負担）をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、28万円余りをご寄付いただきました（平成25年9月～平成26年8月分の積立金）。エコ基金からのご支援は6回にわたり、今回が最終回となりました。（通算寄付総額 2,234,276円）

キリンビバレッジ株式会社
2016年4月28日寄付

フレッセイとキリンビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンビバレッジの対象商品の売り上げ1本につき0.5円（両社で0.25円ずつ負担）をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、28万円余りをご寄付いただきました（平成25年9月～平成26年8月分の積立金）。エコ基金からのご支援は6回にわたり、今回が最終回となりました。（通算寄付総額 2,027,539円）

**一般財団法人
群馬県警察厚生会**
2016年4月11日寄付

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の美しい自然が後世の人々に引き継がれるよう活動に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成23年度から毎年ご寄付をいただき、今回で6回目となります。（通算寄付総額 600,000円）

株式会社とりせん
2016年2月15日寄付

当財団の自然保護活動に活用してもらいたいとの趣旨で、10万円のご寄付をいただきました（3年にわたるご寄付の3年目）。株式会社とりせん様からは、平成21年に株式会社とりせん創立60周年を記念して、環境保全に寄与するという目的で社員の皆様が募金活動を実施し、その収益をご寄付いただいております。同社からのご寄付は通算で4回目となりました。今後ともご支援をいただく予定です。（通算寄付総額 1,358,391円）

ミズバショウと熊

ミズバショウの実が熟すと、木道の上やそのわきに大きく黒い熊の糞が目立つようになる。

糞の表面をよく見ると、茶色い殻のようなものが多数貼り付いている。これはミズバショウの種子の殻だ。糞を掻き分けると、無傷の種子も出てくる。それをミズゴケの上に蒔いておいたら、10個中7個から芽が出て、幼いミズバショウに育った。

ミズバショウの種子は水に浮いて散るが、熊に食われて峠越えもするのだと、この小実験で明らかにできた。(フラワーエコロジスト 田中 肇)



イベント情報 ◆◆◆

※予定は変更になる場合があります

第20回NHK「わたしの尾瀬」写真展

●郡山展

【開催期間】

平成28年11月29日(火)～12月8日(木)

午前8時30分～午後5時15分

※休館日：12月3日(土)、4日(日)

【会場】

郡山市役所本庁舎1階市民ギャラリー

(福島県郡山市朝日一丁目23-7)

(TEL：024-924-2491)

第21回NHK「わたしの尾瀬」写真展

●高崎展

【開催期間】

平成28年

12月9日(金)～14日(水)

午前10時～午後5時

※14日(水)は午後4時まで

【会場】

高崎シティギャラリー

(群馬県高崎市高松町35-1)

(TEL：027-328-5050)

●前橋展

【開催期間】

平成29年

1月13日(金)～18日(水)

午前9時～午後4時

※13日(金)は午後1時から、

18日(水)は正午まで

【会場】

群馬県庁1階県民ホール

(群馬県前橋市大手町1-1-1)

(TEL：027-223-1111)

『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。

※加入・更新時期が年4回(5月・8月・11月・2月)になりました

2月1日からの加入・更新をご希望の方は12月31日までに会費の納入をお願いします。

【年会費】

個人	個人会員	1口	2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口	1,500円
	ユース会員 (加入又は更新時に満22歳以下)	1口	1,500円
賛助	賛助会員 (団体 企業等)	1口	10,000円
	特別賛助会員 (団体 企業等)	1口	100,000円

【特典について】

※友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただきます。

- ・友の会会員バッチ進呈、各種資料送付(初回加入時のみ)
- ・財団機関誌：配付(平成28年度は4回発行予定)
- ・宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引(休日、祝祭日前等の除外日があります。)
- ・尾瀬周辺施設利用料割引：対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。

<https://www.oze-fnd.or.jp>

※特別賛助会員枠を新設しました

●●● 編集後記 ●●●

今年8月、人生で初めて野生のツキノワグマを目撃しました。尾瀬はもともとクマの生息地とは言ったものの、初めてということもあり驚きと恐怖を感じました。私と同じく「初めて」見たという方は同じことを感じたのではないかと思います。人間とクマの距離を適度に保ち、上手に付き合っていけたらと願います。そのためには、彼らの生息地を訪れるということを忘れず、私たち人間がマナーを守らなければなりません。(佐藤)



(公財)尾瀬保護財団
スマートフォンサイト
情報配信中

緊急情報
お知らせ
ライブ映像
など

尾瀬の質問も受け付けています
ツイッター
尾瀬情報配信中

